

プログラム4

布草履を作ろう（エコライフ）

目的

- ・ 自分で布草履を作ってみることで、布製品などのリサイクルについてや、昔の生活の苦勞と楽しみを知る。
- ・ 昔からの知恵や技術の伝承について考える。
- ・ 昔の生活の環境に対する負荷について考え、自身のライフスタイルを考える。

概要

2、3世代前までは家庭でふつうに行われていた日用品づくりの一端に触れることで、昔の生活の様子を知り、その環境負荷の少なさを知る。また、昔からの知恵に触れることで、近所のお年寄りとの交流を増やし、昔の生活と今の自分の生活についてさらに考えるきっかけとする。

対象

小学生から大人まで

実施時期

特に限定しない

所要時間

布草履作り：4時間程度

（材料の布ひもをあらかじめ準備しておけば、時間の短縮は可能。また、片方だけ作って、もう片方を持ち帰りで作ることもできる。）



準備物

<布草履づくり>

- ・ 布（木綿やウールのものがよいが、余り厚手でなければ何でもよい。すでに着なくなった古い着物などがよい。）
- ・ ビニールロープ（6mm 径程度のもの。PP ロープとも呼ばれる。一足分で約2尋（ひろ）（1尋は約1.7m）
- ・ はさみ
- ・ 針、糸

- ・ 資料「草履作り」（説明の図は「わら」を使用する形で書いてあるが、「布ひも」でも同様である。）

<話し合い・振り返り>

- ・ 振り返りシート（参加者数分）

内容

<布草履作り>

- ・ 布を裂く。

用意した不用の布を、10cm程度の幅に裂く。裂きにくい布は、はさみで切る。裂く幅は布の厚さによって違わせ、異なる種類の布でも最終的に布ひもが同じ程度の太さになるように調整する。

- ・ 布ひもを作る。

裂いた縁を中に織り込むようにして、幅3cm程度の布ひもを作る。左右の草履のデザインをそろえるために、同じ種類の布を同じ長さずつ対にしておくとう便利である。それぞれ、小さく巻いておくと、編みやすい。

一足の草履を作るためには、20m弱の長さのひもが必要になる。ひもは、途中で縫ってつなぐので、短いものがあってもよい。

- ・ 草履のデザインを考える。

どの布ひもをどこに使うかによって、できばえが違う。準備できた布ひもの種類を見て、よく考えてデザインする。

- ・ 草履を作る。（資料「草履作り」を参考にする）

①ロープで二重の輪を作り両足指に4箇所引掛けて安定させる。

②布ひも2本を端から約15cmのところロープに2回巻きつける。

③②の手前側（長いほう）の布ひもを2本一緒にしてロープに1往復半編み込む。これがつま先部分になる。

④②の布ひも（約15cmのほう）を下から輪の中央に出し、2つに分けて左右のロープの下に通す。

⑤③の布ひもを1本ずつ交互にロープに通して編んでいく。

⑥土踏まずのあたりまで編めたら鼻緒とするため、布ひもを2本あわせ外側のロープに掛け、左縄を綯う。

⑦必要な長さまで編めたら、左縄の先を2つに分けて編みこむ。

⑧新しい布ひもを中央の隙間に差し込んで、鼻緒に内側から外側へ一度巻きつけてから反対側まで編む。反対側でも同様に編む。

⑨⑤と同様に編んでいき、自分の足の大きさにあわせ適当な長さまで編めたら、かかと部



分は丸くなるように仕上げる。ロープを足指からはずし、手前の 2 本を少しずつ交互に引いて締める。

⑪ 2 本の布ひもを鼻緒にかけ、左縄を綯う。

⑫ 鼻緒立て（なければ鉛筆等）を使って、新たに綯った左縄を前鼻緒として草履に通す。

⑬ ロープを草履の裏側に折り返す。

⑭ ロープに前鼻緒を結ぶ。ロープを切る。

⑮ もう片方も同様に作る。

<話し合い・振り返り>

- ・ 廃品の活用や昔の人の知恵を通じて、今の自分の生活（大量生産、大量消費、大量廃棄）について考える。
- ・ 今日の活動で気づいたことなどを、各自で振り返りシートに記入する。
- ・ 感想や今日からしようと決めたことなどをみんなで発表しあう。

安全対策や配慮事項

- ・ 特に危険性はないが、針やはさみなどの基本的な扱い方に注意する。
- ・ 実施時間が長い場合は適宜休憩をとり、お茶やお菓子でコミュニケーションをとるのもよい。

展開や応用

- ・ 近所のお年寄りに昔の生活について話を聞き、昔のさまざまな物作りの技術を伝授してもらおう。
- ・ 布をわらに代え、わら草履作りに取り組んでみる。

プログラム提供団体

団体名・担当者名 えんなか会 会長 柏樹直樹（かしわぎ なおき）

布・わら草履作り 山東ゆり子（さんとう ゆりこ）

住所 砺波市花園町 1-78 砺波市郷土資料館気付

電話番号 0763-32-2339（砺波市郷土資料館）

電子メール なし

ホームページ なし

団体の概要 昭和 58 年発足。江戸時代中期に建てられた旧中嶋家（現在砺波市チューリップ公園内に移築保存されている）を中心に、昔ながらの手作り品や郷土料理、遊びなどの地域文化の伝承や旧中嶋家の案内・保全などの活動を行っている。昨今の時代の変化は急速ではあるが、人の心の成長は遅れ、自然の営みなども無視されてきている。そのような流れの中における会の存在意義は、先人の作っ

てきた地方文化の良さやその伝承・活用を旨としているところにある。